



損保ジャパン記念財団 News

●発行者：財団法人損保ジャパン記念財団 〒160-0022 東京都新宿区新宿 3-1-16 損保ジャパン新宿東ビル 11階

TEL03-5919-0711 FAX03-5919-0710 <http://www.sompo-japan.co.jp/foundation> Eメール:fvpg3340@mb.infoweb.ne.jp

「NPO法人設立資金」贈呈式が全国で開催される

平成16年度の「NPO法人設立資金助成」は、31都道府県70団体への助成が決定し、贈呈式は7月から全国各地で開催されました。

東京近郊(1都3県、23団体)の助成先を対象とした贈呈式は、7月7日損害保険ジャパン本社ビルにおいて、それ以外は助成先の地区を担当する地区本部または支店主催にて実施されました。お忙しい中、ご協力いただいた皆様には、損保ジャパングループの社会貢献の一翼を担っていただき感謝申し上げます。

なお、全国各地で新聞誌上などに掲載された贈呈式の模様ならびにご協力いただいた皆さまの声は、5ページ以降に特集しています。

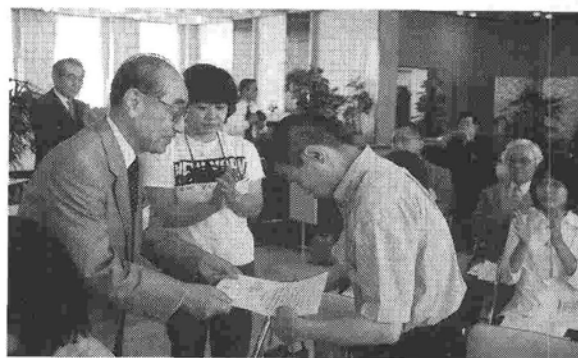


贈呈式で、助成を受けられる皆様へ激励の挨拶をされる金田一郎理事。

講演をされる「シーズ・市民活動を支える制度をつくる会」の松原明事務局長。



贈呈式終了後の交流会で、乾杯の挨拶をされる日本社会事業大学学長(福祉諸科学事業選考委員長)の京極高宣氏。



本社ビルで行われた贈呈式には、各方面から140名の方々が出席され、金田理事から助成先のお一人お一人の席にて、決定通知書が手渡されました。

「自動車購入費助成」の助成先決まる！！

——東日本の10件に——

社会福祉助成の第2弾である障害者団体への「自動車購入費助成」が決定しました。今年度は東日本地区を対象に公募を実施し(募集期間9月1日～18日)、応募総数79件の中から10月29日の選考委員会で厳正なる審査を踏まえ、下表の障害者団体への助成が決定しました。助成金額は1件あたり100万円を限度として、総額970万円となります。贈呈式は損害保険ジャパンの該当地区支店において12月末日までに開催が予定されています。

都道府県	団体名	代表者名
岩手県	特定非営利活動法人 たんぽぽクラブ	牛崎 恵理子
岩手県	盛岡市精神障害者家族会 ユリノキ会	新里 耕一
群馬県	NPO法人 サポートハウスなずな	福島 知津子
埼玉県	社会福祉法人 小規模授産施設よるべ	小熊 孝平
埼玉県	NPO法人 ポコ・ア・ポコ	山本 恵子
千葉県	特定非営利活動法人 ハートケアゆーあい	鳥越 浩
東京都	特定非営利活動法人 介助派遣サービスレイ	原田 華代
東京都	精神障害者家族会蒼空会 福祉工房第二どんぐりの家	熊谷 スミエ
神奈川県	NPO法人 こども応援ネットワーク	佐藤 洋子
山梨県	NPO法人 サポートネットワークゆい	有賀 天間

「損保ジャパン記念財団賞」の審査が始まりました

「損保ジャパン記念財団賞」(後援:日本社会福祉学会・日本地域福祉学会、社会福祉系登録学会協議会、社団法人日本社会福祉教育学校連盟)は、わが国における社会福祉学の発展と研究者の人材育成を目的として、優れた学術文献を表彰する唯一の制度として今年で6回目を迎えました。対象となるのは前年度に発表された社会福祉に関する文献で、学会役員をはじめとする当財団が定めた「指定推薦者」の推薦を受けた文献となります。

本年度は、推薦された著書部門37件31編、論文部門13編を対象に10月12日に第1回審査委員会が開催されました。

今後、さらに12月21日・1月8日と審査を重ね、最終1月26日の第4回審査委員会で受賞候補文献が推薦される予定です。贈呈式は3月に本社ビルで行う予定となっています。



「スペシャルオリンピックス冬季世界大会」 500万人トーチラン委員会に助成

スペシャルオリンピックスは、1963年に故ケネディ大統領の妹ユニス・ケネディ・シュライバー夫人が知的発達障害のある人々のために開催したスポーツ大会が始まりで、その後国際オリンピック委員会 (IOC) から正式に「オリンピック」の名称使用を認められ、現在では4年に一度の世界大会を夏季と冬季に開催してきています。日頃は加盟する160の国や地域において約100万人の知的発達障害を持つアスリートと75万人のボランティアが、スポーツ・トレーニングによる運動機能の向上やチャレンジ精神を養うため活動に参加しています。

2005年2月26日から3月5日までアジアではじめての第9回冬季世界大会が長野で開催され、世界各地から2000名のアスリートと1万人のボランティアが参加し、70種目にわたる競技が行われます。障害者の活動を支援する当財団では、北海道本部からの紹介もあり開催主体であるNPO法人スペシャルオリンピックス冬季世界大会実行委員会に50万円の助成を行いました。

開催に先立ち、9月4日には熊本県の阿蘇神社でトーチラン(聖火)の採火式が行われ、また9月11日には東京の六本木ヒルズアリーナで分火式が行われ、2月までかけて全国各地で500万人が参加するトーチランが実施されています。

皆さんも来年2月に開催される長野の世界大会に是非ご注目いただき、ノーマライゼーションの世界で活躍するアスリート達と感動を共感・共有しましょう。

(スペシャルオリンピックス冬季世界大会はインターネットでご覧いただけます)

NPO法人設立資金助成をきっかけに 支援の輪を広げる(中部本部・名古屋支店)

名古屋支店では、今年のNPO法人設立資金の助成先である「プラタナスの会(精神障害者の作業所)」を、10月10～11日に中部本部ビルの「ひまわりホール」で開催された「第15回パペットフェスティバル(人形劇団の年に一回のお祭り)」のバザーに引き、プラタナス作業所手作りのビーズアクセサリーやジャム、チョコ菓子などの販売で参加してもらいました。

日頃自分たちだけで活動しているプラタナスの会では、このようなフェスティバルにはじめて参加の機会を与えてくれたおかげで、プラタナスの会→損保ジャパン→フェスティバル関係者→他の障害者団体や作業所の方々へとネットワークが広がり、障害者の方々も外へ出る新しい世界が広がることを実感したと、損保ジャパン名古屋支店の好意に大感謝とのレターが届きました。助成金の贈呈式をきっかけに、そのNPO法人の活動を支援する素晴らしい取り組みが実現しました。

本社のECO委員会と「ちきゅうくらぶ」でも、NPO法人設立資金の助成先作業所を本社に引き、障害者の皆さんの手作りアクセサリーやパン(12月には「損保ジャ・ぱん」と名付けたオリジナル)を販売してもらい、設立助成後の活動支援を継続的に行っています。名古屋支店を始めとするこのような取り組みは、助成活動が更に意義あるものとして生きてくる活動であり、損保ジャパンの暖かさが各地に広がることを期待しています。

障害者の新たな全国団体JDFに助成

これまでわが国の障害者団体(当事者団体・支援団体)は、障害種別毎に団体を結成し、多数の団体がそれぞれ個別に活動してきていますが、昨年来、これらの障害者団体が大同団結し上部団体を結成する動きが具体化し、この10月31日に「日本障害フォーラム(JDF)」として正式に発足しました。この団体の設立は、団結が出来ないと言われていたわが国の障害者にとっては画期的な出来事であり、現在国連で討議されている「障害者の権利条約」の制定(主管:外務省・超党派の議員連盟結成)やわが国の「障害者差別禁止法」の制定等に関する活動の中心組織となつてきます。この動きを受けて当財団始め、三菱財団・トヨタ財団・キリン福祉財団・ヤマト福祉財団の5財団は、このJDFの権利条約制定に向けての活動に対して協調助成を実施しました(各財団100万円)。1つの事業に対して複数財団が協調して助成することは画期的なことであり、今後の財団活動の在り方を模索する取り組みとしても注目されています。

新潟中越地震に緊急助成を実施

去る10月23日に発生した「新潟中越地震」は、阪神・淡路大震災以来の甚大な被害の発生となり、1ヶ月経った現在でもまだ復旧のめど立たない被災者の方々が多くおられます。

被災した障害者の小規模(共同)作業所に通所している障害者の方々の中には、共同避難所での生活が困難な方々も多く、やむなく自宅や車あるいは作業所で避難生活をされ、特に被災直後には、支援物資が不十分な状況が続きました。当財団では10月29日に、きょうされん(全国共同作業所連絡会)の調査結果に基づき、小規模作業所の障害者の方々に対し当面の緊急支援として70万円の助成(地域災害緊急支援助成)を実施しました。交通網が遮断された状況の中、ヤマト福祉財団との連携によりヤマト運輸の協力を得て、各作業所へ支援物資が届けられました。

寄付金の御礼

平成16年10月以降、下記の皆様から暖かい寄付金をいただきました。ありがとうございました。当財団の事業資金として大切に活用させていただきます。

(平成16年11月30日現在)

(株)損害保険ジャパン 役員有志ご一同 様

損保ジャパンちきゅうくらぶ 様

(ただし、「損保ジャパンちきゅうくらぶ社会貢献ファンド」寄付金として)

事務局からのお知らせ

当財団は、12月20日(月)より下記の場所に移転しました。

お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄り下さい。笑顔でお待ちしています。

<新事務所> 〒160-8338

東京都新宿区西新宿1-26-1 損保ジャパン本社ビル37階

電話:03-3349-9570 FAX:03-5322-5257

URL:<http://www.sompo-japan.co.jp/foundation> (変更なし)

E-mail:fvgp3340@mb.infoweb.ne.jp (変更なし)

財団法人損保ジャパン記念財団

「NPO法人設立資金助成」 全国贈呈式特集

今年で第6回目を迎えます、平成16年度「NPO法人設立資金助成（社会福祉助成）」は、全国から225件の応募を受け付け、選考委員会を経て下表の通り42都道府県70団体への助成が決定しました。

贈呈式は、全国の損害保険ジャパンの部支店において一斉に開催されました。お忙しい中ご協力いただいた皆様には心から感謝申し上げます。

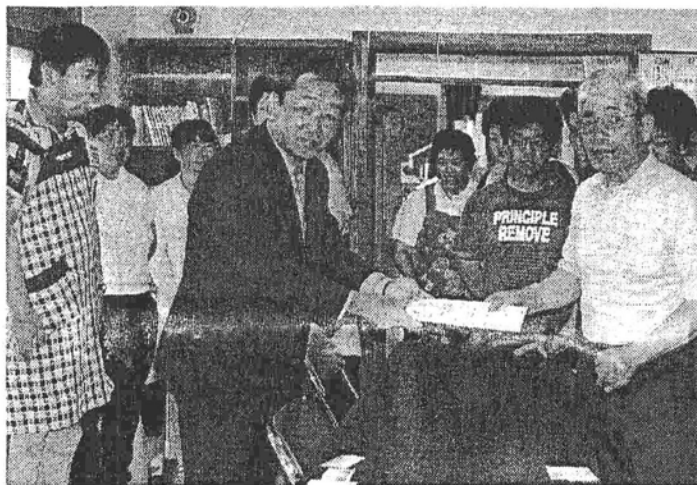
贈呈式の模様が掲載された各地の新聞記事や写真、運営に携わっていただいた皆さまからの「一言感想」をご紹介します。（10月20日報告分）

■新聞掲載記事

No	開催部支店	掲載誌	頁	No	開催部支店	掲載誌	頁
1	南北海道支店 苫小牧支社	北海道新聞	6	18	京都支店	両丹日日新聞	11
2		苫小牧民報社	6	19	福知山支社	京都新聞	11
3		日高報知新聞	6	20	関西総務部	保険毎日新聞	12
4	岩手支店	岩手日報	7	21	関西総務部	神戸新聞	13
5	札幌支店	一言感想	7	22	関西総務部	産経新聞	13
6	仙台支店	一言感想	7	23	関西総務部	読売新聞	13
7	岩手支店	岩手日日新聞	8	24	関西総務部	新日本保険新聞	13
8	山形支店	米澤新聞	8	25	関西総務部	日刊自動車新聞	14
9	山形支店	山形新聞	8	26	西兵庫支店	一言感想	14
10	茨城支店	茨城新聞	9	27	岡山支店	一言感想	14
11	群馬支店	上毛新聞	9	28	奈良支店	奈良日日新聞	15
12	金沢支店	北國新聞	9	29	安芸営業所	高知新聞	15
13	名古屋支店	一言感想	9	30	中国業務部	中國新聞	16
14	静岡支店	静岡新聞	10	31	九州中央支店	一言感想	16
15	岐阜支店	一言感想	10	32	北九州支店	一言感想	16
16	三重支店	伊勢新聞	10	33	高松支店	四國新聞	16
17	滋賀支店	一言感想・提案	10				

静内の授産所に助成金

損保ジャパン記念財団 NPO法人化を支援



【静内】損保ジャパン記念財団は二十九日、民間非営利団体(NPO)法人の設立準備を進める「しずない小規模授産所」(木村泰通代表)に、助成金三十万円を贈った。(加藤利器)

同財団は六年前からN代表として高橋広幸さんがP O法人化を支援する助成を行っており、今年はて立派に生活していきま全国で七十団体、道内かす」とお礼の言葉を述べら同授産所を含む三団体が選ばれた。

この日は、沢拓也・南設立され、現在十五人の北海道支店長(札幌)が通所者が印刷業務や木工授産所を訪れ、助成金三十万円を贈呈。通所者を組んでいる。すでにNPO法人の認証申請を道に提出しており、早ければ十月にも認証される見通しだ。

今回初めて贈呈式に携わり、当該施設の竹田所長からいろいろなNPO関連のお話を頂きました。

その中で、法人設立後は各種助成が受けられる制度はあるが、法人設立の助成をしてくれる団体はほとんど存在しないとのこと。あらためて損保ジャパングループの援助にすばらしい意義を感じました。

また、当日通所者が作成された木工・手工芸品を頂き大変感激致しました。

[苫小牧支社]リーダー(支社長) 渡辺 勝則 さん

しずない小規模授産所に助成金

損保ジャパンがNPO設立支援

静内町のしずない小規模授産所(木村泰通代表)は、NPO(特定非営利活動法人)「木の福祉会」を設立準備を進めているが、二十九日に損害保険ジャパン記念財団(本部東京、平野浩志理事長)から、設立資金助成金三十万円が贈呈された。

同記念財団の社会福祉助成事業で、二〇〇四年度は全国から二百二十五カ所から申請があり、七十カ所への助成を決めた。このうち道内は同授産所を含め三カ所に助成することになったという。

損害保険ジャパンの沢拓也副北海道支店長、渡辺勝則苫小牧支社長が同授産所を訪れ、木村代表に「ささやかな援助だけれど有効に使ってほしい」と、助成金三十万円を手渡した。

同授産所は現在、道知事にNPO法人認証申請をしており、今秋には認証される見通しと、助成金は設立準備資金として活用する。



沢支店長(左)から木村代表に助成金が贈られた



NPO化に弾み

しずない授産所に助成金



沢支店長(左)から助成決定書を受け取る木村所長(右)

【静内】在宅知的障害者の就労の場として、廃品の回収、アルミ缶選別など自立更正のための職場訓練を行っている「しずない小規模授産所」(木村泰通所長)は、特定非営利活動法人(NPO)「木の福祉会」の設立を申請中だが、このほどNPO設立を支援する損保ジャパン記念財団から三十万円の設立助成金が贈られた。

授産所は昭和六十一年の設立。現在十五人がコンプの分別、各職場での実習、イベントへの参加など様々な事業を行っている。木村所長は「これでNPO承認に弾みがついた」と喜んでいった。

記念財団は社会福祉助成事業で全国二百二十五事業のうち七十事業、道内で三事業に支援を決定。このほど損保ジャパンの沢拓也副北海道支店長らが授産所を訪れ、木村所長に社会福祉助成金の決定書を手渡したが、

7月1日の贈呈式は、「工房てんとう虫」の須藤所長他、障害者家族会「かわさき虹の会」、高齢者ボランティア団体「さぼてんグループ」、川崎村役場の皆様が総勢20名以上参加され、盛大に行われました。

NPO法人化により、障害者の方々の社会参加がさらに促進されることへの期待を強く感じました。

[岩手支店]リーダー

井上 史也 さん



5.

朝礼の際に訪問し、会員の皆様の前で贈呈式を実施。佐藤代表も身体障害者を持っていらっしやいましたが、大変喜んでいただきました。

[札幌支店]リーダー

渡邊 滋 さん



はがき作りに励む工房てんとう虫の利用者



川崎村の障害者作業所「てんとう虫」

発足2年さあ「脱皮」

川崎村薄衣の障害者作業所・工房てんとう虫(須藤静恵所長)は、障害者の家族会かわさき虹の会(千葉重雄会長、十五人)から、新たな民間非営利団体(NPO)法人への運営移行を目指している。てんとう虫が七月一日、財団法人損保ジャパン記念財団から設立資金の助成を受けることが決まり、早ければ年内にもNPOを設立したい考えだ。

家族会の運営 NPO主体に

年内にも設立

てんとう虫は、かわさき日、同村薄衣の空き店舗でいる。虹の会が運営主体となり、二〇〇二年八月発足。村内の十三人が登録し、十一人が常時利用している。指導者は須藤所長ら二人。土、日曜日を除く平日、同村薄衣の空き店舗でいる。NPO法人化は、家族会の会員の減少、高齢化などで、村内の高齢者ボランティア団体「さぼてんグループ」(鈴木章会長)の支援を得て、絵画やはがき作り、高齢者宅の草取りなどの活動を展開し、新組織で再出発する形だ。

七月一日に生涯学習センターで行われる助成金贈呈式の後、設立準備会を開催し、NPO法人化に向けて本格的に活動を進める。

須藤所長は「新たな運営組織で障害者の環境が一層良くなるよう支援していきたい」と期待を込める。

設立資金の助成は今年四月、全国的に社会福祉助成活動を展開している同財団(厚生労働省所管)に申請。六月上旬に三十万円の助成が決まった。

6.

贈呈式でお会いした小島理事の「キラキラとした目の輝き」と「熱のこもったお話」が印象的でした。

そして何よりも本助成を本当に喜んでおられ、今さらながら助成金の重さと暖かさを感じました。

[仙台支店]支店長 梶谷 良一 さん



7. 岩手日日新聞 (7/2)

工房てんとう虫(川崎)に通知書
NPO 年度中の設立目指す
資金助成

損保ジャパン記念財団
(理事長・平野浩志) 損保ジャパン(社長)のNPO(民間非営利団体)法人設立資金助成贈呈式は一日、川崎

村薄衣の村生涯学習センターで開かれ、小規模作業所「工房てんとう虫」(須藤静恵所長)に決定通知書を手渡した。工房てんとう虫は十六年度中のNPO設立を目指しており、同日は設立準備会を開いて発起人五人を選任。法人化へ一歩踏み出した。

午後一時からの贈呈式では、損保ジャパン岩手支店の坂本守支店長が「社会貢献活動の一環で、NPO設立資金を助成し、障害者や高齢者福祉団体の活動を支援している」とあいさつ。坂本支店長が須藤所長に資金助成決定通知書を手渡した。



NPO法人設立資金助成贈呈式で須藤所長(右)に助成決定通知書を贈る坂本支店長(左)

贈呈式終了後、NPO法人設立に向け、村やボランティアらで準備会を開催。発起人代表に葛西秋夫さん、同村門崎字銚子川を選任、設立総会を十一月に開催する予定。須藤所長は「市町村合併の議論も進んでおり、今年度中には設立させたい」と話している。NPO法人設立資金助成には二百二十五件の申し込みがあり、審査の結果七十団体に各三十万円、計二千百万円を助成する。工房てんとう虫はさまざまな障害を抱える人たちが自立支援の小規模作業所として十四年八月に発足。絵画やミニ掛け軸、各種人形などの制作に取り組んでいる。

小国の共同作業所に助成金

損保ジャパン NPO法人化を支援



損保ジャパン記念財団(平野浩志理事長)は十四日、特定非営利活動法人(NPO法人)化を目指している小国の共同作業所「まんまる」(渡辺重雄理事長)に、法人設立助成金三十万円を贈呈した。

役割を果たしてほしい」と期待を込め、まんまるの渡辺重雄理事長と、渡部昭七施設長に、助成の決定通知書を手渡した。

助成の決定通知書を受け取る渡辺重雄理事長(中)と渡部昭七施設長(左)

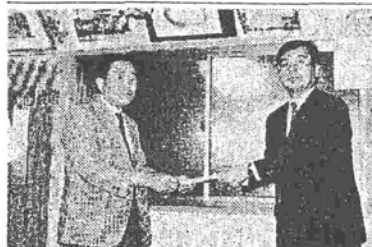
8. 米澤新聞 (7/15)

共同作業所に助成金

損保財団

損保ジャパン記念財団(平野浩志理事長)は十四日、小国の共同作業所「まんまる」(渡辺重雄代表)にNPO法人設立資金として三十万円を助成した。同

社山形支店の五日市橋弘支店長と丸田孝人米沢支社長らが作業所を訪れ、渡辺代表に手渡した。写真。同財団の助成は、民間福祉活動推進を目的に実施されており、今年が二十七回目。今年も全国七十の団体に、総額二千百万円が



助成された。

9. 山形新聞 (7/15)



10. 茨城新聞(8/31)

県内2団体に
助成金を贈呈

損保ジャパン財団

損保ジャパン記念財団
(平野浩志理事長)は二
十六日、内原町のフリー
スペースすだち(須田彰
代表)と東海村のドリー
ムたんぼ(中村朋子代
表)に、NPO法人設立
資金として各三十万円の



助成金を贈った。
フリースペースすだち
はパンの製造販売などを
通して引きもちがちな

若者を支援している。ド
リームたんぼは知的障
害者によるパン工房を運
営している。両団体は二
十五日付で県からNPO
法人の認証を受けた。
贈呈式は水戸市南町二
丁目の損害保険ジャパン
茨城支店で開かれ、伊東
新介支店長(写真左)が
須田、中村両代表にそれ
ぞれ目録を手渡した。須
田代表ら二人は、「感謝
でいっぱい。今後の活動
に役立てます」と謝辞を
述べた。
同財団は一九七七年に
設立。九九年度からNP
O法人設立を助成してい
る。本年度の助成対象は
全国七十団体。

NPO助成金
2団体に贈呈

前橋で損保
ジャパン記念財団

損保ジャパン記念財団
(平野浩志理事長、東京
都新宿区)は三十日、前
橋市本町の損保ジャパン
群馬支店(宮下佳蔵支店
長)で、障害者や高齢者
福祉団体のNPO法人
設立資金として県内の
二団体に助成金を寄贈
した。

助成金を受け取ったの
は、同法人「ノア」(織
俊子代表、高崎市新後閑
町)と一星の里(前川
知三代代表、富士見村引
田)。それぞれに三十万
円が贈られた。



助成金の目録を受け取っ
た織さん(右から3人目)

11. 上毛新聞 (7/31)

いつもながら懇談の時間が有意義です。それは資金
援助の面から感謝されることだけでなく、贈呈式開催
を担当することにより、贈呈先の代表の方のご苦労
や、やりがいなど生の声を聞ける立場にたてることに
もあります。また、来賓の方からは、この助成金の利
用を広く紹介していきたいとお言葉を頂きました。

[群馬支店] 伊藤 芳江 さん

事業発展につなげてほ
しい」と述べた。



一化一長彦佐真た助方て三
層、法支藤II成円を十
の、人は店彰写しを十

福祉推進で30万円助成
損保ジャパン記念財団
は29日、高齢者、障害者
の支援団体「WAC輝
き」(金沢市)に対し、
NPO法人設立資金とし

贈呈式後の懇談の時間で、実際に多くのボランテ
ィアの協力によって活動が行われている現実を聞き、心温まる思いをしました。また法人設立資金が
有意義に使われることが大変うれしく、今後とも可
能な限り協力を行いたいという思いに満たされました。
[金沢支店]リーダー 仁田脇 慎市 さん

12. 北國新聞 (7/30)

13.

贈呈式のとき会の活動の話になり、(贈呈
先のプラタナスの会はビーズ細工の指輪
等を販売している)。当社側が、10月に中
部ビルで開催されるパペットフェスティバル
(当社協賛)のフリーマーケットに出店でき
るよう事務局に連絡を取って差し上げた
ところ、同店が出店できることとなりました。

[名古屋支店]リーダー
田附 幾雄さん





県内2団体に贈られたNPO法人設立資金助成金の贈呈式—静岡市呉服町の損保ジャパン静岡支店

損保ジャパン記念財団 助成金三十万円を「フリー」
 (東京)は十四日、本年「スペース・うえるび」
 度のNPO法人設立資金(島田市)と「人形劇ア

損保ジャパン NPO 認証へ
 2団体に助成金

ロジェクト「稲むらの火」(富士宮市)に贈った。
 うえるびは障害者の地域生活支援を進める事業所で五月に発足。障害者が気軽に訪れる憩いの場を用意するほか相談業務、ヘルパー派遣などを行っている。十月にNPO認証取得の見通し。助成金は憩いの場のバリアフリー化、パソコン購入などにあてるといふ。
 稲むらの火は小泉八雲原作で、防災を呼び掛ける内容の人形劇。二〇〇三年から各地で公演を続け、今後は和歌山県や八雲ゆかりの焼津市で公演予定。今月中に認証取得見込みで、助成金は公演費用などに充てる。
 贈呈式は同社静岡支店で行い、中島寛支店長が決定通知書を両団体の代表に手渡した。助成は九年度に始まった。本年度助成対象は全国で七十団体。

助成金を大変喜んでいただけたのが、印象に残りました。

[岐阜支店]リーダー 永見 徹一 さん

いなべのNPO
 に設立資金助成
 損保ジャパン記念財団

【津】損保ジャパン記念財団(平野浩志理事長)は二十一日、津市栄町の損害保険ジャパン三重支店会議室で特定非営利活動法人(NPO)法人設立資金助成の贈呈式を開き、同財団理事長代理の損害保険ジャパン三重支店村上修一支部長が、いなべ市のNPOウィミィ代表、出口いつ子さんに社会福祉助成決定通知書を手渡した。
 村上支部長は損保ジャパンの設立趣旨について話し「年々応募倍率が高くなっている

NPO法人設立資金



なか、県で初めての授与にさらに活動を推進して、地域の福祉に貢献してください」と祝い、出口代表は「在宅支援を中心に高齢者の支援をしてきた。助成を機にますます頑張っていきます」と礼を述べた。
 同財団は社会貢献活動の一環として昭和五十二年に設立し、社会福祉助成を毎年実施し(ことしで二十八回目を迎える。平成十一年からは助成対象を高年齢者・障害者福祉団体

がNPO法人になるための設立支援を目的にした。平成十六年度は、全国七十の障害者・高齢者福祉団体に対し、NPO設立資金として各三十万円、合計二千百万円の助成を決定した。同財団のこれまでの社会福祉助成金額の累計は約十一億五千万円になっている。

今回の贈呈先は、放置された果樹園を手入れして、障害者の授産・自然公園としての地域への貢献(認知度を上げる・受け入れられる)を目的に、現在の障害者施設・授産事業を広げる目的でのNPO設立先です。代表の方との面談では、日ごろのわれわれの商売(?)とは全く異質な、高邁な理念で社会福祉事業に貢献されてこられた実績に、頭が下がる思いを致しました。是非事業が成功されんことをお祈りします。 [滋賀支店]リーダー 向井 隆晃 さん

今回の贈呈で感じたこと

- * 今まで贈呈して来たNPOの状況をヒアリングして、「その後のNPO法人」として目的とした事業がどうか?、理想としたレベルの事業内容を達成したかなどを特集記事にしては如何でしょうか?
- * 財団として社会に貢献してきた実績とその効果・結果を、社内・社外にアピールできるものができるのでは?

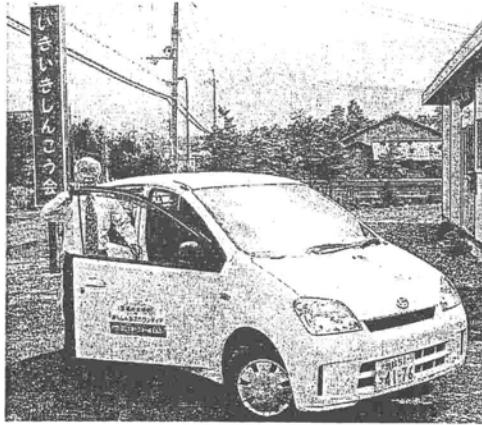
[滋賀支店]リーダー 向井 隆晃 さん

いきいき
しんこう会

NPO法人を設立

高齢者らの移送サービス

地域の福祉向上をめざす福知山市の「いきいきしんこう会」（山下真弘代表）が29日、NPO法人的に設立登記をした。昨



移送サービスで活躍する自動車と山下理事長

18. 両丹日日新聞 (7/30)



年11月上旬、高齢者や障害者の交通の利便を図るために任意団体として移送サービスを始めたが、社会的信用度をさらに高めてより充実したサービスを提供するため、法人化に踏み切った。

移送サービスは「あんしん快足ボランティア」の名で取り組んでいる。会員制で、現在、福知山、綾部両市の約130人が登録。希望日時予約を受けて車いすにも対応した自動車など6台で会員宅に出向き、通院や買い物など外出時の送迎をしている。

同日、駒場新町の同会事務所、財団法人損保ジャパン記念財団からの助成金の贈呈式があった。山下会長が損害保険ジャパン京都支店福知山支社の佐藤直彦支社長から、NPO法人設立資金

として30万円を受けた。介護保険の導入を機に全国的に増えている有償移送サービスは、無認可で実施している団体が多いが、今年3月に国土交通省が一定の条件を満たせば認める指針を示した。同会では「特定移送事業の許可を取って移送サービスを行う方針で、さらに地域の人たちが安心して生活できるよ

19. 京都新聞 (7/30)

福祉移送充実へ

いきいきしんこう会 NPO法人に移行

福知山

高齢者らの移送サービスを行う福知山市の「いきいきしんこう会」が二十九日、NPO法人(特定非営利活動法人)に移行した。国が今年三月にまとめた移送サービスの法的ガイドラインに基づき、今後、行政に許可申請を行うため、役員たちは「正式に認められた活動にして、サービス拡充につなげたい」と意気込んでいた。同会は、運転が困難な高齢者らの移動手段確保を目的に、昨年十一月に発足した。福知山、綾部両市の高齢者ら約百三十人が会員で、一日二十一人が通院や買い物などのために利用している。社会的信頼を得て、移送サービスを拡充するため、NPO法人格の取得を決めた。損保ジャパン記念財団(東京)から、同法人設立資金三十万円の助成を受けた。今後、国が黙認してきた「白タク」から、ガイドラインに基づく事業者への移行を目指し、本格的な準備を始める。

山下真弘会長(理事長)

贈呈式の準備やらマスコミの手配など忙しい日々でしたが、大変貴重な体験をさせていただきました。今まであまり意識してきませんでした。地域に密着して活動を行うにあたりNPO法人となることのメリットを肌で感じる事が出来ましたし、損保ジャパンがその支援をしていると言うことを誇りに思いました。今回の贈呈先は支社代理店ともゆかりのある方でしたが、知らない間に申請をされていました。良い制度ですから、もっともっとPRすべきだな...と反省させられた一面もありました。
[福知山支社]リーダー 佐藤 直彦 さん



移送サービスの車両を用意するいきいきしんこう会の役員たち(福知山市駒場新町)

は「法人化を機に地域高齢者の福祉向上のため、さらに努力したい」と話している。

大阪・兵庫地区から11団体が出席



損保ジャパン
記念財団

福祉助成贈呈式を開く

（助損保ジャパン記念財団（平野浩志理事長）は、障害者や高齢者福祉団体に対するNPO法人設立資金として平成16年度社会福祉助成金を1団体30万円、全国70団体に合計2100万円を助成する決定をし、その大阪・兵庫地区での贈呈式が、7月27日午後2時から大阪府中央区の損保ジャパン大阪ビル11階特別会議室で開催されたII写真上。特定非営利活動促進法の成立により、同財団でNPO法人の設立を支援する目的で平成11年度に助成を開始して以来、今年で6年目。これまで全国570団体に対し1億7000万円を助成している。



平澤 部長

局長、また、大阪地区の助成先5団体、兵庫地区の6団体、合わせて11団体から13人の代表者や関係者が出席した。

贈呈式は、藤本敬介関西総務部総務課長代理の司会が始まり、主催者を代表してあいさつした平澤部長は、損保ジャパン社が、安田火災と日産火災が合併し、破たんした

大阪・兵庫地区の贈呈式は、損保ジャパンから平澤昌彦関西第一業務部長、松田剛関西総務部総務課長、損保ジャパン記念財団から富沢泰夫事務



富沢 事務局長

大成火災を吸収して誕生した会社の経緯と、過日、副社長の村瀬氏が社会保険庁長官に就任した旨を述べるとともに、「特定非営利活動促進法に基づきNPO法人設立資金を助成している損保ジャパン記念財団の設立趣旨や、応募者が多くなった昨今、助成対象団体を高齢者や障害者福祉団体に絞って助成している」と現状を報告した。

また、「平成11年に第一回の助成を行い、昨年までに全国495団体に約1億5000万円を助成。これらの助成先の92%以上が法人化して活躍している」と紹介。「福祉系NPO法人は全国で9300以上が誕生していると言われているが、財団としては、障害者・高齢者福祉部門を中心に積極的に支援していく考えだ。わが国のこのような活動が発展していく中で、皆さまが先駆的な役割を果たし地域社会福祉の向上に貢献されることを期待している」と結んだ。

続いて、損保ジャパン記念財団の富沢事務局長は、NPO法人助成の特徴、応募の状況から選考概況について説明し、「NPO法人の認証を早く取り、わが国の市民活動を支える中核として福祉活動にまい進してほしい」とあいさつした。

贈呈式終了後は、助成先団体の代表者からそれぞれが所属する団体の事業内容や今後の目的などの披露があり、互いに懇親を深めた。

助成先団体は次のとおり。

- 〈大阪府〉
 - ▽大阪障害者労働センター・マツサク（平野区）▽関西STS連絡会（浪速区）▽第三空間を支える親の会「つばさの会」（天王寺区）▽Handicapped workshop「フリーズ」作業所（平野区）▽かがやき（住吉区）
- 〈兵庫県〉
 - ▽グリーン（神戸市長田区）▽どりー夢（伊丹市）▽ボブリー（神戸市北区）▽生活支援研究会（神戸市東灘区）▽障害者共同作業所「にじのかげ橋」（神戸市東灘区）▽ゆうネット・ホップ（西宮市）



初めてだったので、すべてが新鮮だった。恥ずかしながら記念財団の業務内容、役割、NPO団体との関係も全く分からないままスタートしたので苦労した。特に全国紙・地方紙（読売・産経・神戸）への掲載の為の根回しが大変だった。しかしながら、本贈呈式を通して当社が多くの面で社会に貢献していることを改めて体感できたことは非常に有意義だった。また、マスコミを通じて、業界ならびに社会に多少なりともアピールできたのではないかと自負している。

[関西総務部] 藤本 敬介 さん

伊丹の作業所など NPO法人化へ 6団体に30万円

損保ジャパン財団が贈呈



損保ジャパン記念財団(東京)は二十七日、障害者や高齢者の在宅福祉活動に取り組む神戸市長田区の「リーフグリーン」など県内の六団体に、特定非営利活動法人(NPO法人)設立資金として、それぞれ三十万円を贈った。

贈呈式では、伊丹市の精神障害者作業所「どりー」の岡田智子所長が代表してあいさつ。「震災以降の地道な活動が評価されてうれしい」などとし、助成金の使途については「うつ病や引きこもりなど、精神障害への理解を広める講演会を開きたい」と話した。

「夢」の岡田智子所長が代表してあいさつ。「震災以降の地道な活動が評価されてうれしい」などとし、助成金の使途については「うつ病や引きこもりなど、精神障害への理解を広める講演会を開きたい」と話した。

助成事業は、損害保険

ボランティア 12団体に支援金

損保ジャパン記念財団 民間福祉活動を支援するため、財団法人損保ジャパン記念財団(東京都)は二十七日、府と兵庫県のボランティアグループなど十二団体へ活動支援金として各三十万円計三百六十万円を贈った。

助成を受けたのは、引きこもり少年のサポート事業を行っている第三空間を支える親の会「つばさの会」など府内の五団体と、障害児童の在宅支援をしているリーフグリーンなど兵庫県内の七団体。

大阪、兵庫の11団体にNPO法人設立資金 損保ジャパン記念財団(東京都新宿区)は、法人化を目指している障害者・高齢者福祉団体を対象に、NPO法人設立資金として全国70団体に各30万円、計2100万円を助成することを決めた。大阪、兵庫両府県は次の11団体。

- ▽大阪障害者労働センター・マツサク(平野区)▽Hakusho (浪速区)▽第三空間を支える親の会「つばさの会」(天王寺区)▽かがやき(住吉区)▽リーフグリーン(神戸市長田区)▽ポプリ(同市北区)▽生活支援研究会(同市東灘区)▽障害者共同作業所「じのかけ橋」(同)▽どりー(兵庫伊丹市)▽ゆうネット(同西宮市)



損保ジャパン記念財団は、平成16年度社会福祉助成金を全国70の障害者・高齢者福祉団体に對し、特定非営利活動法人設立資金(NPO法人設立資金)として各30万円、合計2100万円の助成を決定し、そのうち大阪・兵庫地区の11団体への助成金贈呈式を7月27

日午後2時から損保ジャパン・大阪ビルで開催した。当日は、大阪5団体、兵庫6団体の代表者ら13名と、同財団の富沢泰夫事務局長、損保ジャパン

彦部長、同関西総務部総務課の松田剛課長の3名が出席。富沢事務局長が今回の助成先選考の経緯などを説明し、「市民活動を支える中核になってください。ご活躍を期待しています」と挨拶した。決定通知書が手渡された後、伊丹市でボランティア活動を行う「どりー」の岡田智子さんが代



表して謝辞を述べ、「地域に溶け込んで、地域のための活動を続けていきます」と抱負を語った。

損保ジャパン記念財団 保険ジャパン社長は、
 (理事長)平野浩志損害 大阪府中央区の損保ジャ
NPO助成金を贈呈
 大阪、兵庫の11団体に
 損保ジャパン

代表の方お二人が来社されましたが、ほとんどボランティアの様なNGOの仕事を、非常に若い方が真面目にかつ明るく取り組まれておられる事に驚きました。

[西兵庫支店]リーダー
 新見 敏彦 さん



26. 西兵庫支店にて (7/14)

パン大阪ビルで「NPO法人設立助成金贈呈式」
 写真を開催し、大阪・兵庫の民間11団体に助成金を贈呈した。
 同財団が今年度助成を実施した団体は全国で70団体。各団体に30万円、合計2100万円を助成した。
 同助成制度がスタートし、今年度で6年目を迎え、助成先団体と助成金額は全国570団体、1億7千万円を数える。助成先は地域に根差し、高齢者・身体障害者福祉を目的としている民間団体。NPO法人設立に向け、検討段階にあるところを中心で、同財団では資金用途を問わないというユニークな助成制度だ。
 助成先を代表して、どりー夢(兵庫県伊丹市)の岡田智子代表は「阪神



大震災を乗り越え、地域に密着した活動を進めてきた。今後も一層地域のための活動に尽力したい」と、あいさつした。
 助成先は次の通り。
 △大阪府 大阪障害者労働センター(大阪市平野区) 関西STS連絡会(同浪速区) つばさの会(同天王寺区) フリージア作業所(同平野区) かがやき(同住吉区)
 △兵庫県 伊丹リーフゲリン(神戸市長田区) ポプリ(同北区) 生活支援研究会(同東灘区) にじのかけ橋(同) どりー夢(伊丹市) ゆうネットホンクール(西宮市)



25. 日刊自動車新聞 (8/10)



贈呈式には3団体5名の参加を頂きました。光内支店長より損保ジャパン記念財団の設立趣旨、現在までの活動実績等をお話いただき、参加者の方は大変感動されておりました。式後の懇談会では各団体の方が、これまでの活動内容や将来のビジョン等について熱く語って頂き、たいへん感銘をうけました。

[岡山支店]販売業務支援スタッフ
 中村 禎宏 さん



27. 岡山支店にて (8/24)





社会福祉の向上に期待

—損保ジャパン記念財団—

はじめの一步設立準備会を支援

損保ジャパン記念財団の支援を受けた特定非営利活動法人はじめの一步設立準備会の川上由紀子理事長(左)

NPO法人設立資金を

支援する財団法人損保ジャパン記念財団(平野浩志理事長)の今年度の支援団体が、特定非営利活動法人はじめの一步設立準備会(川上由紀子理事長)に決まり二十七日、損保ジャパン奈良支店(原支社(橿原市内膳町)で贈呈式が行われた。

同財団は、損害保険ジャパンの社会貢献活動の一環として一九七七年設立され、九九年から全国の高齢者・障害者福祉団体を対象にNPO法人になるための費用を助成している。今までの助成は四百九十五団体、千五百万円で、今年度は、応募二百二十五団体のうち、七十団体を審査、選考し、二千百万円の支援を行った。

贈呈式では、小笹猛雄(左)が「地域の社会福祉の向上に貢献されることを期待している」とあいさつ。小中幸成上牧町社会福祉協議会事務局長が「家族の関係が変わってきた社会の中で、市民活動が重要だと感じている。頑張ってもらいたい」と話した。

特定非営利活動法人はじめの一步設立準備会は、知的障害児(自閉症)を持つ親五人で結成され、北葛城郡上牧町で活動を行う。川上理事長は「助成金は大切に使用していただきます。知的障害児は、周囲の理解が得られにくく、専門家がいない施設も少ないため、預ける場所もなく途方にくれる親が多い。安心して気楽に利用してもらえる施設として療育、デイサービス、放課後支援や余暇を一緒に過ごすなどの支援をしていきたい」と話した。



ゆうハートNPO化

安芸市の共同作業所 損保ジャパン支援

小規模通所授産施設へ「清掃作業やナスの袋詰の移行を目指している安芸市の精神障害者共同作業所「ゆうハート安芸」(永田清子所長)に二十八日、損保ジャパン記念財団(東京)からNPO法人の設立資金として三十万円が贈られた。

「精神障害者が地域で暮らし、社会参加するための施設を」と、安芸地域家族会と芸陽病院家族会が主体となって設立。現在、県東部の約二十人が



大久保支店長=右=から目録を受け取る藤原代表(安芸市庄之芝町)

感謝の言葉を述べた。

しかし無認可で厳しい運営が続いているため、小規模通所授産施設への移行を検討。設置、運営主体となるNPOの法人格取得を目指している。

同財団は昭和五十二年度から、毎年社会福祉助成を行っている。今回は全国七十の障害者や高齢者の福祉団体に計二千百万円を贈る。

この日、同市庄之芝町の損保ジャパン安芸営業所で贈呈式が行われ、同社の大久保保一高知支店長、市福祉事務所長らが出席。同作業所の藤原速雄代表が「活動を通じ市民に貢献できるよう一丸となって努力したい」と

損保ジャパン記念財団
NPO法人設立助成金贈呈式

30. 中国新聞 (7/27)



★NPO法人設立へ助成金
損保ジャパン記念財団は
(東京)は二十六日、特定
非営利活動法人(NPO法
人)設立を目指す視覚障
害者の介護支援グループ「ま
ごころ」(広島市西区)に
設立助成金を贈った。
損保保険ジャパン広島支
店(中区)で、多田憲史支
店長が岩見新平理事長に助
成金三十万円の目録を手渡
した。まごころは視覚障害
者自身が設立した団体とし
て、助成金を贈る対象に選
ばれた。

31.

今回は代役で担当したよう
な形でしたが、選に漏れた
応募者全員に贈呈できれ
ば、もっと多くの人に喜んで
もらえるのにと感じた。
[九州中央支店]リーダー
古賀 光彦さん



贈呈式では大変感謝されました。当
社の存在を知らなかったと言われア
ピール不足を実感。今回の贈呈先
は視聴覚障害者自身での設立であ
り、贈呈のみに終わることなく、今後
の活動への支援が必要だと感じまし
た。

[中国業務部総務課]
長岡 恵美子 さん

32.

表彰式は無事に終了させていただきました。
昨年度はマスコミの方々にも来ていただき盛大に行いま
したが今年度はマスコミへのニュースリリースを直前までや
り続けたにもかかわらず反響がありませんでした。
毎年、取り組み続ける(助成金を出し続ける)ことに意義
があると思いますが、恒常的になり新鮮味が欠けているので
まう危険もあると思います。巨額の助成金が出ているので
すから、それを生かすためにはもうひとひねり工夫が必要
だと感じています。 [北九州支店] 前田 綾 さん



33. 四国新聞 (7/28)



福祉団体に
30万円贈呈
高松、損保ジャパン
損保ジャパン記念財団
は二十七日、高松市紺屋
町の損保ジャパン高松支
店で、障害者のIT技能
習得などを支援する「障
害者在宅就労サポートZ
e.Ro」(高松市)に

NPO法人の設立助成金
として三十万円を贈呈し
た。
NPO設立助成は同財
団が行っている社会貢献
活動の一環で、五年前
に開始。毎年、応募の
あった全国の高齢者・
障害者福祉団体から選
んでおり、県内では二
回目。
贈呈式では、岡田広志
損保ジャパン高松支店長
が同サポートの川田英司
代表に助成決定通知書
を手渡した。写真。川田
代表は「NPO設立や障
害者の社会就労を支援す
る講習会の開催などに活
用したい」とお礼を述べ
た。

